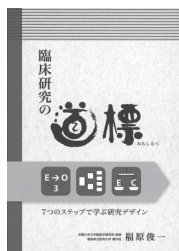


書評

〔評者〕
上野文昭
大船中央病院特別顧問



臨床研究の道標 7つのステップで学ぶ研究デザイン 福原 俊一 著

A5判 280頁 2013年
定価 4,725円(本体 4,500円+税 5%)
[ISBN978-4-903803-21-0]健康医療評価研究機構刊

日本は世界で第何位？

日本は世界有数の先進国である。経済大国であり先端技術でも世界をリードしている。ところが世界の一流医学雑誌に採択された日本発信の臨床研究は、世界で25位！という惨状である。しかも年々下降傾向にあるのは由々しき状況といえる。

では日本の医学は二流なのであろうか？ 否、ノーベル賞受賞者を輩出したことは記憶に新しい。臨床レベルだって決して世界に引けを取らない。問題はよい臨床研究が少ないことである。もっと正確に言えば、よい臨床研究を始めるためのお作法を知らない過ぎることである。

臨床研究を始めるにあたって

このたび上梓された『臨床研究の道標(みちしるべ)』を目にして、眼から鱗が何枚も落ちた。これぞまさに日本の臨床研究が世界レベルに一步近づくための道標である。本書を読まずして臨床研究を始めることは、ルールを知らずにカジノでゲームをするぐらい無謀で虚しい挑戦である。

著者の福原俊一教授は臨床研究デザインの第一人者として多くの優秀な若手を育て日本の臨床研究のレベルアップに尽力されているが、実は単なる臨床疫学者ではない。彼は数少ない米国内科専門医であり、FACP

(米国内科学会上級会員)の称号を有するグローバルに通用する内科医である。本書でも医療者の心が臨床研究の出発点であることが強調されている。類書と異なり、難しい統計学や臨床疫学の知識を押し付けるのではなく、医療者の疑問を解くために段々と知識を得たくなってくるような見事な流れである。

サービス精神旺盛の楽しい書

本書の内容は決して平易ではない。むしろ臨床医にとっては高度で難解である。でも全然そう感じさせない。研修医と謎の老人との対話に始まり、多くのイラストや有益な囲み記事をちりばめながら、読者を臨床研究のために重要な7つのステップへと引きずり込むことに成功している。一度読んで忘れたことでも二度、三度と読み返すのが楽しい。

読み終えた後の不思議な感慨

よい臨床研究をしたいという志のある医師にとって本書は必読の書である。また、臨床論文を正しく読みたいと願っている若手医師から指導医クラスまですべての医師に自信をもって推薦したい。本書に登場する研修医が最後に抱いた「期待感にちょっぴり自信のようなものが混じった、しかし静かで落ち着いて、ひと言で言えない感情」に、評者の私も共感を覚えた。